

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	池田 雅明
主な担当科目	コンテンポラリーミュージック・スタディ特別演習①,コンテンポラリーミュージック・スタディ特別演習②,ジャズ & コンテンポラリーアンサンブル特別演習Ⅰ①②,ジャズ & コンテンポラリーアンサンブル特別演習Ⅱ①②,ジャズアンサンブルⅠ①②(月曜3限),ジャズアンサンブルⅠ③④(月曜4限),ジャズアンサンブルⅡ①②③(木曜2限),ジャズアンサンブルⅡ③④(木曜3限),ジャズコンボ①②,ジャズの歴史と作品,ジャズビッグバンド①②,ジャズ演奏法④,ポピュラー作曲・編曲法②(水曜3限),ライブパフォーマンスⅠ,ライブパフォーマンスⅠ①,ライブパフォーマンスⅡ/Ⅱ①,ライブ実習Ⅰ①,ライブ実習Ⅰ②,ライブ実習Ⅱ/Ⅱ①②,海外研修ⅠⅡⅣⅤ,合奏Ⅲ①②,卒業ライブ,副科グループレッスン(火11:15-12:00),副科グループレッスン(火20:30-21:15),インストⅠ
2024年の教育目標・授業に臨む姿勢	講義科目(ジャズの歴史と作品)のメディア授業化に向け動画内容を検討し作成する。開講2年目となるジャズ & コンテンポラリーミュージック大学院の更なる授業内容拡充を目指し、初の論文指導にも力を入れる。海外大学からのジャズ系ワークショップの受け入れや中国系音楽塾との更なる連携、また5月末に予定されているNWSG主催Partyにて日豪ジャズ文化交流を含めた成果を発揮し成功させる。顧問を務めるLily Jazz Orchestraのコンテスト用指導と更なる学外宣伝に力を入れる。
2024年の教育に関する自己評価	「ジャズの歴史と作品」のメディア授業化を完結させたが、コンテンツの見せ方にはまだ修正の余地がある。来年度に向けて更なるスリム化を目指す。ジャズ & コンテンポラリー大学院の特別集中講義に学内外から新たな招聘講師をお呼びし、授業内容の拡充を図った。ミシガン州立大学ジャズコースとの合同ワークショップの成功、東京光音楽塾との更なる連携強化、及び、NWSG Partyに於ける日豪合同 Big Bandの成果を発表、成功させることが出来た。顧問を務めるLily Jazz Orchestraの山野ビッグバンドコンテストでは昨年に引き続き、第2位を獲得出来た。
2024年のFD活動に関する自己評価	大学主催のFD研修会には全て出席し、本学に於ける今後の運営方針、様々な学生への対応法を含め、再考する良い機会となった。特に9月のFD分科会ではファシリテーターを務め、グループ内の意見を円滑に取りまとめた。更に部会における各楽器ごとのFDでは各講師からの貴重なご意見に共感する部分も多く、来年度のコース運営としても、より良き授業展開に繋げる策を講じて行きたい。
授業改善のために取り入れた研修内容	本学ならではのブランディングを考え、ジャズ・ポピュラー音楽のみならずジャンルの壁を超えた指導法を模索した。多数の留学生を含む多様な学生への対応について、更に個々へ向き合うための様々な方法を考え、実践した。各楽器ごとの講師より寄せられた意見をもとに、特にレッスン室の設備やレイアウトについて改善を行った。

2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2327 教員名:池田 雅明

1)アンケート結果に対する所見

2024 年度は、開講 2 年目を迎えた J&C 大学院において、授業内容の一層の充実に努めた。その結果、アンサンブルやオムニバス講師制による特別授業に対しては、概ね満足 of いく評価を得ることができた。

一方で、学部のジャズコンボの授業については、「オムニバス講師制が楽しみである」との肯定的な意見がある一方で、「授業の統一性を欠くのではないか」との指摘も見受けられた。

また、新たにオンライン授業として開講した「ジャズの歴史と作品」については、200 名を超える多数の学生が受講可能となる一方で、資料の提示方法や保存方法など、新たな課題も明らかになった。

2)要望への対応・改善方策

ジャズコンボの授業では、入学者および受講者数の増加に伴い、さまざまな課題が顕在化している。特に 1・2 年生のクラスにおいては、演奏レベルの差が大きく、各指導講師間で基礎的内容やジャズ初心者への具体的な指導方法を共有する必要性を感じている。

また、「学年別」ではなく「レベル別」でのクラス編成を望む意見もあり、この点については、2025 年度から予定しているセメスター制への移行を踏まえ、今後の検討課題としたい。

「ジャズの歴史と作品」については、初めてオンライン (Teams) による授業展開を行ったが、概ね円滑に進めることができた。ただし、「授業資料を閲覧可能な形で残してほしい」という学生からの要望もあり、今後の改善点として検討していく予定である。

3)今後の課題

オンライン授業が増加する中で、学生との円滑なコミュニケーションを図るためには、現在使用している Teams から、学内で統一的に運用されている UNIPA への移行を進めることが重要であると考えます。

また、「ジャズの歴史と作品」においては、オンライン化により受講者数が増加した一方で、課題のやり取りや評価に多くの時間を要している現状がある。そのため、今後は履修人数の上限設定を含めた運営方法の見直しを検討していく必要がある。

以上